

農業共済新聞 千葉版

掲載号	5 月 4 週号	
筆者	所属	農林総合研究センター
	職名及び氏名	研究員 清原 玲子
題名	ブルーベリーを加害するオウトウショウジョウバエ防除について	
備考	【写真説明】 オウトウショウジョウバエによる被害果	

【本文】

千葉県ブルーベリー栽培は木更津市を中心に行われており、5月上旬から出荷が始まっています。ブルーベリーは健康によい果物として消費者に認知され、消費は増加傾向にあります。これまで、ブルーベリーは、適地に植え付けて適切な耕種的管理を行えば、病害虫の発生は少なく、無農薬栽培が可能な果樹であると考えられてきましたが、ここ数年はオウトウショウジョウバエの防除に苦慮しています。

そこで、農薬を用いないオウトウショウジョウバエの防除技術の確立を目指し、網を用いた防除方法を検討しました。

オウトウショウジョウバエの侵入を防止するため、ラッセル編みの1.5mm及び1mm目合い、平織の0.98mm目合いの3種類の防虫網の効果について調査しました。その結果、0.98mm目合いの網で、完全に成虫の侵入を防ぎました。また、果実収量、品質及び樹の生育は、通常の栽培のものと比較して差はありませんでした。防虫網を被覆するうえでの注意点は次のとおりです。1) 網目が細かく汚れやすいので、被覆はハイブッシュブルーベリーの早生品種の収穫が始まる一か月前頃から始め、収穫終了後は速やかに収納する。2) 出入り口の網を長時間上げておくと、網内にオウトウショウジョウバエが進入する恐れがあるので、網の下部は重しなどで押さえ、入り口の網の上げ下げは最小限にとどめる。3) 防虫網の使用により、園内はやや暗くなることから、果実品質を低下させないために剪定を実施し、園内が明るくなるように管理する。



写真 オウトウショウジョウバエによる被害果